

## 武庫川だより「セイタカアワダチソウ」

森田 至

先日、宝塚自然の家で環境体験学習を行った際に児童よりこの花は何ですか？という質問のうち、セイタカアワダチソウとアキノキリンソウがありました。セイタカアワダチソウは武庫川の土手や寄州にもたくさん生育していますので、今回はセイタカアワダチソウを取り上げます。(アキノキリンソウは次回)セイタカアワダチソウはキク科アキノキリンソウ属で別名を「セイタカアキノキリンソウ」といいます。本種の標準和名は花後に白い冠毛の付いた瘦果が多数付き、泡のように見えることから付いた名前だと思われます。本種に悪いイメージがあるのは、アレロパシー(他感作用)があり、他の植物の生育を阻害し、爆発的に増殖したことで生態系への影響が大きくなったためです。特に湿原などに入り込むと問題になります。そのため「日本の侵略的外来種ワースト100」や「生態系被害防止外来種リスト」に記載されています。しかし、アレロパシー物質で自家中毒をおこし、やがて自然に衰退すると事がわかっています。また、花粉症になると言う間違った情報から嫌われているようです。花粉症になるのは風媒花の植物で、虫媒花の本種はほとんど花粉は飛ぶことはありません。大人の自然観察会で本種を見ると、花粉症になると怖がる人がいます。そんなとき茎を揺さぶって花粉が飛ばないことを確認してもらっています。本種は悪いイメージとは逆に利用価値もあります。元々、観賞用や蜜源として導入され利用されてきました。また、本種の花、葉、茎にはポリフェノール類が多く、強い抗酸化活性を示すことから、活性酸素に起因する癌、動脈硬化、糖尿病などの予防に効果が期待されています。その他全草を染色に、花はハーブティ、若葉を山菜として利用したり、薬草風呂としても使われています。全草にサポニン(界面活性作用)を含むので、風呂に入れると泡立ちます。そのことから、環境体験学習では花を小瓶に一晚浸けたもので、泡が立つことを子どもに見てもらいました。(泡立つ情報は新会員の野口さんからいただきました)



皆さん、一度  
試してみましょう

## 11月13日「里山を楽しみ 湿原を守ろう」の報告

事務局 垣田

快晴のもと、上記の行事を社会教育課、保護協会、宝塚エコネット(TEN)の共催で実施しました。存知のように宝塚自然の家にある松尾湿原は、1978年に市の天然記念物に指定されています。しかし、1980年には湿原の遷移から消滅の懸念があったようで、兵庫県立大学服部保(現)名誉教授の指導の下、服部研究室スタッフと宝塚市自然保護協会により保全活動を再開し、2004年からは現在の中心的活動団体であるTENさんが加わり、今のような湿原になっています。当日は湿原保全の活動が主ですが、それ以外にも「野鳥のエサ台づくり」や自然工作「落ち葉の窓」の活動もしました。保護協会から和田会長、足立顧問、清川さん、森野さん、岩橋さん家族3人、村上さんと垣田の9人が活動に参加しました。中々、保護協会のメンバーの方の顔が分からないとのご意見もあり、今回は活動の様子とともに写真を掲載させていただきます。(※活動中であり、「ハイ・ポーズ」とはいきませんのでお許し下さい)



(活動風景から)



(和田会長：挨拶)



(足立顧問：湿原の紙芝居)



(岩橋さん兄弟：草集め)



(和田会長：一番上で木の伐採)



(岩橋さん母と村上さん)



(村上さん：冬眠中を発見)  
セトウチサンショウウオの話)



(清川さん：野鳥のエサ台作り  
ヤマガラ・シジユウカラが来ます)



(落ち葉の窓を製作中)



(岩橋さん母と森野さん指導の  
落ち葉の窓の完成品です)



(森野さん、岩橋さん兄)



(右は岩橋さん弟)



いつもお世話になる龍見さん

※年度末発行の会報の中に「会員の広場」を計画しており、皆さんからの記事を募集します。  
詳細は、次の「ニュースレター」でお知らせします。